

復興支援フォーラムニュース No.32

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫(tkonno67@gmail.com) 中井勝己(024-548-8313)>

第29回ふくしま復興支援フォーラム「原発事故と4つの事故調査委員会報告」／真木實彦氏)で寄せられたご意見等。(2013.1.22)

★事故調を今後どう生かしていくか、この結果（成果）を生かしていくためのボールは我々の側にあるのかもしれませんが。（Y.T）

★「戦後日本のあり方が問われている」。まさしくその通りだと思う。いつまでも経済優先でやっていけないと思う。（Y.I）

★報告者のお話のように、4報告書の中で国会事故調の報告書が出色の出来で、特に事業者と規制当局の立場が逆転し。「虜」になっているとの指摘をしたことは（よくここまで書けたなど）感動的でした（SPEEDIについての判断は甚だ疑問ですが）。しかるに国会が何の動きも見せていない現状には危機感すら感じます。（T.I）

★とても有意義な講演でした。あらたなスタートにしたいと思います。（O.S）

★4つの事故調の特徴について、とらえやすく解説していただき、ありがとうございました。（K.F）

★今までバラバラに読んでいた4つの事故調について、論点を明らかにして比較対照していただき理解が深まった。各事故調の結果を、今後どう活かすかにも有益であった。（R.N）

★4つの事故調の立場がよく分かりました。倫理的思考の弱さは、日本特有かもしれないですね。（S.O）

★事故調をあらためて、よく読んでみたいと思いました。これからの長い年月、ぶれないで、がんばっていきける力をつけるために、どうするか、いろいろ考えさせられるお話でした。（Y.A）

★議論の行方がよくわからなかった。抽象的な議論が多く、ときにはより大きな問題整理や明確な評価・判断が必要ではなからうか。（S.I）

★各事故調報告書をどのように受け止め、活かしていくか、考え始める動機づけになり有意義でした。（T.I）

★多量な4つの事故調の報告書に目を通し、論点を5つにまとめていただきありがとうございました。多様な問題の出現は、これからも出続き、タフな精神と強い継続力を身に付け、歴史上まれな事件を生きるものとして、未来の人々のためにも記録を残すことによって、現在の思いを伝える大切さを、事故調の内容にふれることによって知ることができました。ブレない軸、タフなマインド、継続する姿を共有したいものです。(T.S)

★各事故調査報告は、誰のための方針や目的になっているのか。このような人災事故がなくなるようか、なくすためか、それともリスク低ければよしするのか。被害者にとっても、加害者にとっても、個々の人生がありますが、人災事故によって人間としての生き方も、憲法にある人間としての権利も奪ってしまうのが核・原発がからむ人間が起こす事故(事件)なので。私達は命あるが、生きてきた足跡も、現実も、未来も、自立も困難な状況にあります。この年月は戻せないし、何のためにこんな生活しているのだろうかわかりません。こんな思いが被害を受けた人間の「心からの怒り」であろう。(H.S)

★4つの事故調報告書を受け止めて、いかに取り組んでいくかの大きな課題をあらためてとらえてみるよい機会となりました。フォーラムの方向性を指し示すテーマになると思いました。(J.M)

★「事故調査委員会報告」を、どのように読めばいいのかも分からないでいたが、今日参加して少なからず整理をすることができた部分がある。また、話の中に「私たちの物として」との言葉があったが、すべての人が、そのように受け止めていくには、随分と時間がかかるようにも思う。それには、福島の中で起きたことを、どう次に伝えるかというところでも、多くの人々に考え続け、発信する責任を自覚し続けることにもつながるようにも思う。(M.K)

★ゴールの見えない長い積み重ねを経ていかなければならない状況を、見とどけることができな世代としては、息子・娘世代、どういう結末を迎えるのか、福島だけが孤立していくのではないかと不安を覚えますが、今回参加し、継続していくべき方向性を示していただいて様に思います。ありがとうございました。(M.T)

★事故調の位置づけ、意味あいを積極的に理解しようとしなかった自分としては、書かれた文言もさることながら、「今後どう活かすか問われてる」とのご指摘を伺い、その持つ重さを改めて認識しました。(T.I)

=====
【予告】

第31回 「ふくしま復興支援フォーラム」(2013年2月22日(金) 18時30分～)

「葛尾村における避難と復興に向けた取組み」

金谷 喜一 氏(葛尾村副村長)

会場:「AOZ」大活動室1

<第30回ふくしま復興支援フォーラム>

「放射線のリスクをめぐるコミュニケーション」

東京工業大学（元・福島大学） 村山武彦

1. リスクコミュニケーションに関する全般的議論

- ・人々はリスクをどのように感じているか？
- ・リスクを管理するために、コミュニケーションがなぜ必要とされているか？
- ・コミュニケーションを進めるうえで、当事者間の信頼関係がなぜ重要となっているか？
- ・期待される効果と必要となる情報
- ・具体的な事例

2. リスクコミュニケーションから見たこれまでの状況

- ・事故後一か月の時点での評価
- ・行政の見解
- ・問題点
 - ・中央政府と現場対応との乖離
 - ・放射線のリスク特性に起因するコミュニケーションの困難さ
 - ・地域社会における信頼関係の崩壊

3. 除染に関連したコミュニケーションの取り組み

- ・地域対話フォーラム
- ・基礎自治体レベルの除染に関連した取り組み
- ・放射性廃棄物のための仮置き場・中間貯蔵施設に関する議論

4. 今後の課題

- ・放射性物質の削減からリスクそのもののコミュニケーションへ
- ・健康影響だけでなく社会影響を含めたコミュニケーションの必要性
- ・安全性に関する議論の社会化
- ・地域レベルの総合的な計画との連携